

# 株 主 通 信

第9期 2007年9月1日から2008年8月31日まで

## 株主の皆様へ To Our Shareholders

株主・投資家の皆様には平素より格別のご支援ならびにご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

当社は「新しい価値を創造し、心のこもったサービスを通じて、社会に貢献する企業を目指す」という経営理念のもと、地盤の調査を行い、強度に問題がある地盤を補強し、確実な方法で地盤に保証を付けることにより、皆様に安心を提供してまいりました。

その様な中、平成19年6月の建築基準法の改正、平成21年10月の住宅瑕疵担保履行法の施行など、我々を取り巻く環境は劇的に変化しております。この環境の変化は消費者保護を目的に、安心・安全、ひいては品質の確保が最優先課題であることから起こっております。その観点からも、建物にとって非常に重要な要素である地盤調査・補強のニーズは今後もさらに高まっていくものと確信しております。我々は、時代の変化を先読みし、それに対応した商品開発を進めてまいりました。その結果、財団法人日本建築センターより「NSVコラム工法」の建設技術審査証明、財団法人日本建築総合試験所より「HITSコラム工法」の建築技術性能証明をそれぞれ取得いたしました。また、業界初となる10年確定PL保険(生産物賠償責任保険)を国内損害保険会社引き受けにより、住宅瑕疵担保履行法に沿った地盤保証制度の立ち上げにも成功しております。

今後は、付加価値の高い工法にて品質を確保し、しっかりした保証制度により安心・安全を提供することで、住宅及び前期より推し進めております小型商業施設・賃貸用低層住宅に対する地盤調査・補強工事のシェア拡大を図ると共に、前期に共同設立いたしましたジオサイン株式会社を活用した透明性の高い地盤調査・補強工事を実現することによって、新しい価値の創造に積極的に取り組み、事業成長・企業価値の向上に努めていく所存でございます。

最後に、前期の業績不振を、お詫びすると共に、早急なる業績回復を図り、配当の再開を早期に実現したいと考えております。



サムシングホールディングス  
株式会社  
代表取締役社長

前 俊守

## プロフィール



### グループのシナジーを原動力に、 新たな成長段階へ。

#### ■ サムシング・グループの基本方針

サムシング・グループは設立以来、「マーケットイン」・「ニッチ」・「グロース」という3つのキーワードを念頭に置いて、経営戦略を立案しています。

企業側の論理で「良いモノ・サービス」を提供するプロダクトアウトの考え方ではなく、「顧客の望むモノ・サービス」を提供する「マーケットイン」の視点でお客様と取り引きしています。そして、市場(＝お客様)ありきの考えで、店舗展開、商品開発を行っています。

市場の選択にあたっては、「ニッチ」という要素を重視しています。それはサムシング・グループが、大手企業と同じ土俵に立って競争をするには、現状の体力では不十分であるという現実を認識しているからです。そこで、大手企業とのむやみな競争を避け、収益の確保を見込める市場に経営資源を集中していきます。

市場の選択条件としては、成熟市場ではなく、規模は必ずしも小さくなくとも新興の成長市場を志向しています。

## ■ 事業系統及びセグメント

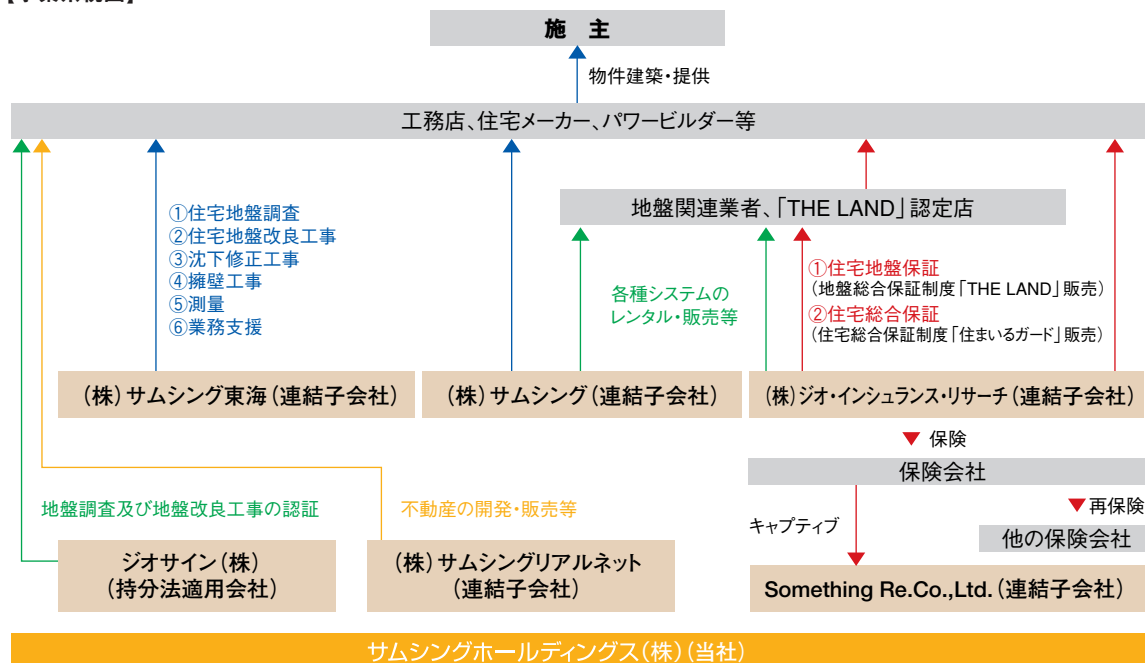
当社は、純粋持株会社であり、グループ各社の経営指導、グループ全体の事業統括及び新規事業開発等を行っております。また、グループ各社から、総務、人事、経理及び経営企画等の管理業務も受託しております。

事業の種類別セグメントは、次のとおりであります。

事業の種類別セグメント	主な事業の内容	主な会社名
地盤改良事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅地盤調査</li> <li>●住宅地盤改良工事</li> <li>●沈下修正工事</li> <li>●擁壁工事</li> <li>●測量</li> <li>●地盤関連業者に対する業務支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)サムシング</li> <li>●(株)サムシング東海</li> <li>●(株)ジオ・インシュランス・リサーチ</li> </ul>
保証事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅地盤保証</li> <li>●住宅総合保証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ジオ・インシュランス・リサーチ</li> <li>●Something Re. Co., Ltd.</li> </ul>
不動産事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不動産の開発・販売</li> </ul>	●(株)サムシングリアルネット
その他の事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種システムのレンタル・販売等</li> <li>●電子認証サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ジオ・インシュランス・リサーチ</li> <li>●ジオサイン(株)※</li> </ul>

(※) ジオサイン(株)は持分法適用会社であります。

### 【事業系統図】



●グループ各社の経営指導、グループ全体の事業統括及び新規事業開発 ●グループ会社からの総務、人事、経理及び経営企画等の管理業務の受託

## 住宅分野で培った技術・ ノウハウをベースに、 グループのシナジーを最大化。 さらなる成長ステージへと 飛躍していきます。

サムシング・グループは、株式会社サムシングをコアに、次々と新しいサービスを提供してきました。住宅分野に特化して、地盤の調査を行い、強度に問題がある地盤を改良してきた「株式会社サムシング」・「株式会社サムシング東海」。そして株式会社サムシングが調査・改良工事を通して蓄積してきた地盤に関わる情報をデータベース化し、電子報告書としてアウトプットするシステムを開発する一方で、株式会社サムシング、株式会社サムシング東海が施工した改良工事を第三者的な立場から審査し、保証するサービスを提供する「株式会社ジオ・インシュランス・リサーチ(GIR)」。さらに不動産の開発・販売等を行う「株式会社サムシングリアルネット」。今後もさらなる成長を目指し、新しいサービスを生み出し続けます。

平成21年10月に施行される住宅瑕疵担保履行法では、基本的に住宅建築のみをフォローして地盤部分は免責であるため、当社グループは従前とは異なり平成20年10月より本格的に地盤部分のみをフォローします。

### ③ 10年確定PL保険 (生産物賠償責任保険)付地盤審査

地盤関連会社様(調査・改良会社)や工務店様向けに、地盤調査及び地盤改良工事に対して、基礎着工日に始まり、引渡日より10年間保証する地盤総合保証制度「THE LAND」10年確定PL保険付地盤審査を提供しています。



国土交通省が指定する住宅瑕疵担保責任保険法人が提供する保険等

地盤総合保証制度「THE LAND」10年確定PL保険付地盤審査

### ■ サムシング・グループのワンストップサービス

#### ① 測量・ 地盤調査

地盤の強度(N値と呼ばれる値)を調査し、そのままの地盤でも建物が建設可能か否かを測定します。



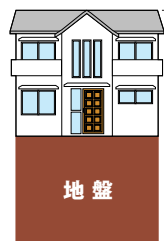
#### ② 地盤改良

地盤調査の結果、軟弱地盤と診断された土地に対し、建設する住宅の重みに耐えられるように、基礎下の地盤を補強します。



#### ③ 保証

ハウスメーカー様や工務店様向けに、建物引渡しから10年間保証の地盤総合保証制度「THE LAND」、基礎着工から10年間保証の住宅総合保証制度「住まいるガード」を提供しています。



住宅総合保証制度「住まいるガード」  
・地盤に起因する建物の不具合  
・住宅建築に起因する建物の不具合を保証

地盤総合保証制度「THE LAND」  
地盤に起因する建物の不具合を保証

## ■ グループフォーメーション



## TOPICS

### ● NSVコラム工法とHITSコラム工法の技術証明取得

- NSVコラム工法  
財団法人日本建築センター  
建設技術審査証明 (BCJ-審査証明-149)  
取得工法
- HITSコラム工法  
財団法人日本建築総合試験所  
建築技術性能証明 (GBRC性能証明 第08-03号) 取得工法

### ● 地盤調査認証会社の共同設立

平成20年1月にジオサイン株式会社（出資比率30%、資本金50,000千円）を共同設立しました。ジオサイン株式会社は、「電子認証」付地盤調査を実施する為の住宅地盤第三者認証システム「G-Web system」を提供しております。このシステムを導入することにより、不正や改ざんを防止することに有効なタイムスタンプ付の地盤調査報告書を発行することができます。

※「G-Web system」とは、GPSデータ・タイムスタンプ・地盤調査データなどをインターネットを活用し、リアルタイムで「電子認証」を行い、不正や改ざんを防止するシステムです。

### 1. 当期の概況

当連結会計年度の業績は、売上高4,675,933千円(前期比0.3%増)、売上総利益1,190,549千円(前期比0.2%減)となりましたが、人件費及び研究開発費等の増加による販売費及び一般管理費1,249,692千円(前期比12.5%増)を吸収しきれず、営業損失59,143千円(前連結会計年度営業利益81,133千円)、経常損失78,713千円(前連結会計年度経常利益63,895千円)となりました。また投資有価証券評価損の計上により当期純損失149,648千円(前連結会計年度当期純利益47,124千円)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (1) 地盤改良事業

地盤改良事業は、主に地盤改良工事と地盤調査・測量に分かれます。

地盤改良工事におきましては、量的な拡大よりも顧客構成比の変更に重点を置いたことと、新設住宅着工戸数の大幅な減少により、売上高成長率は従来と比較して鈍化しました。工法別では鋼管杭打節工事が減少する一方で、表層改良工事が大幅に増加しました。また中部地区において営業を展開している株式会社サムシング東海の売上高が大幅に上昇し、全体の押し上げに寄与しております。

地盤調査・測量におきましては、スウェーデン式サウンディング試験が前期比で減少に転じたものの、ボーリング調査や地盤のワンストップサービスを充実させるために強化してきた役所調査・測量が好調に推移したため、売上高は堅調な伸びとなりました。

新規の拠点としては、地盤改良事業の営業エリア拡大を目的として、平成19年12月に福岡県福岡市において株式会社サムシングの九州営業所を出店しました。

この結果、地盤改良事業の売上高は4,384,292千円(前期比14.1%増)となりました。

#### (2) 保証事業

保証事業におきましては、平成21年10月に施行される住宅瑕疵担保履行法の影響で競争が激化し、地盤保証制度「THE LAND」の販売件数は伸び悩みました。また同様の理由で住宅建築に起因する不具合も保証に加えた住宅総合保証「住まいるガード」の販売も不調に終わりました。

この結果、保証事業の売上高は215,688千円(前期比3.6%増)となりました。

#### (3) 不動産事業

不動産事業におきましては、神奈川県において小型の案件に特化した不動産の開発・販売を実施しましたが、不動産市況の急速な悪化により販売が大幅に低迷しました。

この結果、不動産事業の売上高は63,452千円(前期比89.4%減)となりました。

#### (4) その他の事業

その他の事業におきましては、地盤関連業者に対するシステムレンタル等の業務支援受注により売上高は12,500千円(前期比0.6%減)となりました。

### 2. 次期の見通し

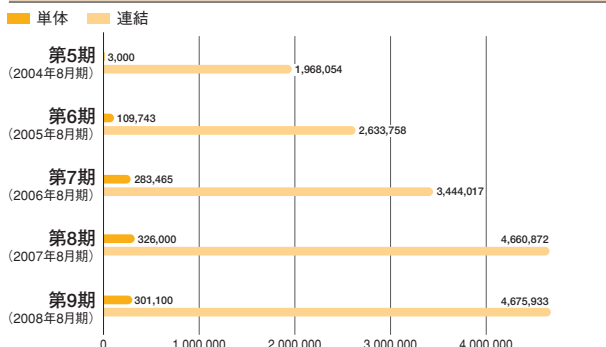
次期の見通しにつきましては、国内景気の減速感是一段と高まりつつありますが、改正建築基準法の影響が一段落して新設住宅着工戸数の減少も落ち着いてくると考えられます。また、住宅瑕疵担保履行法の導入により平成21年10月1日以降に引き渡される新築住宅について建設業者及び宅地建物取引業者に瑕疵担保責任保険への加入または保証金の供託が義務付けられます。この大幅な制度改正を背景に住宅の安全性に対する関心が高まり、当社グループがコア事業とする地盤改良工事・地盤調査に対する需要は底堅いと予想しております。

地盤改良事業におきましては、引き続き事業規模の拡大を抑制し、収益性重視の営業戦略を展開します。財団法人日本建築センター及び財団法人日本建築総合試験所から取得した二つの独自工法を用いて、付加価値の高い技術提案をハウスメーカー中心に訴求していきます。また個別案件の採算管理を強化し、原価率の改善を図ります。

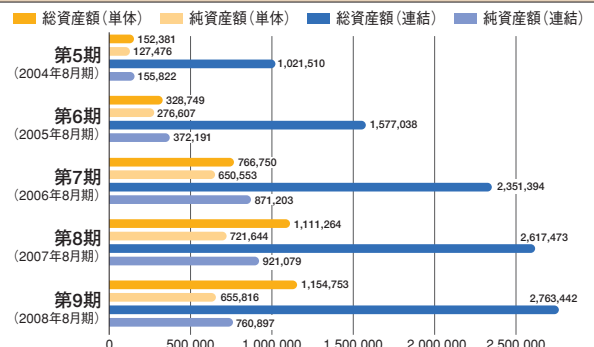
保証事業におきましては、国土交通大臣指定の住宅瑕疵担保責任保険法人と業務提携を行い、新しい顧客層を拡大し、当社グループの強みである住宅地盤に対するリスク管理に特化することにより、大幅な事業環境の変化に対応していきます。

不動産事業におきましては、新規不動産の仕入れ・開発を凍結し、在庫不動産の適正かつ速やかな売却に注力します。

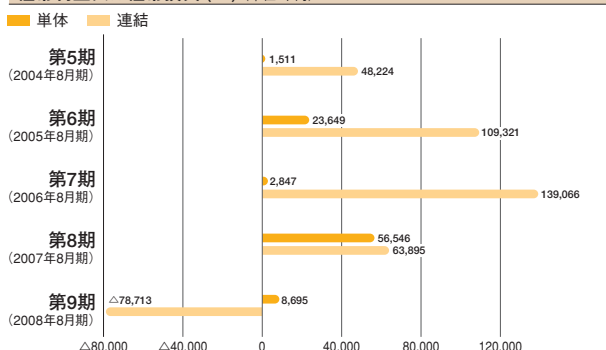
売上高 (単位:千円) (注)売上高には、消費税等は含まれておりません。



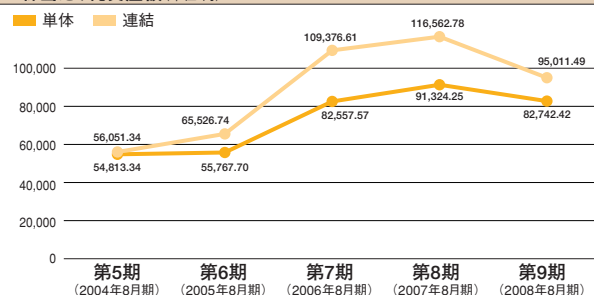
総資産額・純資産額 (単位:千円)



経常利益又は経常損失 (△) (単位:千円)

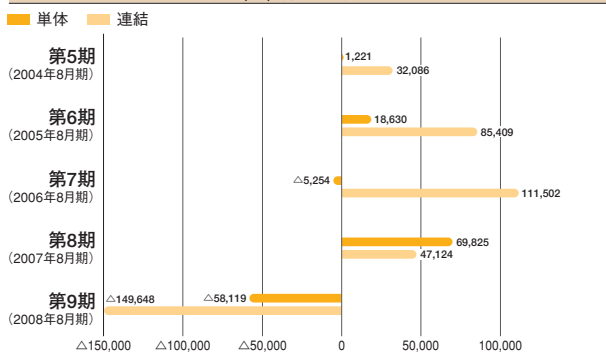


1株当たり純資産額 (単位:円)

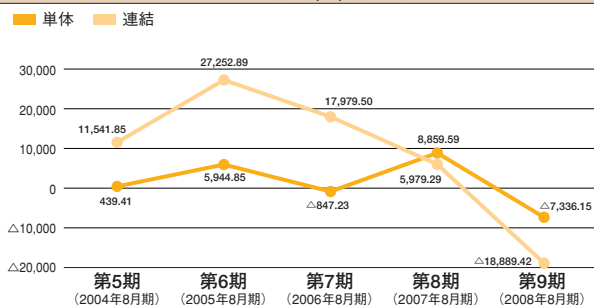


(注)当社は、2006年2月3日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。上記では、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を表記しております。

当期純利益又は当期純損失 (△) (単位:千円)



1株当たり当期純利益又は当期純損失 (△) (単位:円)



(注)当社は、2006年2月3日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。上記では、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を表記しております。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2008年8月31日現在)	前期 (2007年8月31日現在)
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	2,228,120	1,946,333
固定資産	535,322	671,140
有形固定資産	287,880	474,349
無形固定資産	58,395	50,083
投資その他の資産	189,046	146,707
資産合計	2,763,442	2,617,473
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	1,353,258	1,036,930
固定負債	649,286	659,464
負債合計	2,002,545	1,696,394
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	754,106	910,277
資本金	331,122	330,432
資本剰余金	295,694	295,004
利益剰余金	127,289	284,840
評価・換算差額等	△ 1,045	1,279
その他有価証券評価差額金	△ 1,045	1,279
少数株主持分	7,836	9,521
純資産合計	760,897	921,079
負債・純資産合計	2,763,442	2,617,473

### 連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (自2007年9月1日 至2008年8月31日)	前期 (自2006年9月1日 至2007年8月31日)
売上高	4,675,933	4,660,872
売上原価	3,485,383	3,468,449
売上総利益	1,190,549	1,192,422
販売費及び一般管理費	1,249,692	1,111,289
営業利益又は営業損失 (△)	△ 59,143	81,133
営業外収益	16,277	11,001
営業外費用	35,847	28,238
経常利益又は経常損失 (△)	△ 78,713	63,895
特別利益	—	4,547
特別損失	56,921	851
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失 (△)	△ 135,635	67,591
法人税、住民税及び事業税	28,170	20,327
法人税等調整額	△ 16,964	△ 2,116
少数株主利益	2,808	2,255
当期純利益又は当期純損失 (△)	△ 149,648	47,124

#### 【連結貸借対照表コメント】

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末と比べ、145,968千円増加し、2,763,442千円となりました。これは主に売上債権や販売用不動産等たな卸資産の増加によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ、306,150千円増加し、2,002,545千円となりました。これは主に下期での受注増加に伴う仕入債務の増加244,962千円及び金融機関よりの借入債務が18,901千円増加したこと等によるものが主な原因であります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ、160,182千円減少し、760,897千円となりました。これは主に、当期純損失149,648千円の発生や前期に剰余金の分配7,902千円を行ったことによる利益剰余金が157,550千円減少したこと等によるものであります。



## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	(自2007年9月1日 至2008年8月31日)	(自2006年9月1日 至2007年8月31日)
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 156,561	222,159
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 53,355	△ 398,617
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	10,760	188,113
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	△ 199,156	11,655
現金及び現金同等物の期首残高	653,235	641,580
現金及び現金同等物の期末残高	454,078	653,235

## 【連結キャッシュ・フロー計算書コメント】

- 1 当連結会計年度の営業活動の結果、使用した資金は、156,561千円（前連結会計年度は222,159千円の獲得）となりました。これは主に税金等調整前当期純損失135,635千円及びたな卸資産の増加が、売上債権の回収を上回ったことによるものであります。
- 2 当連結会計年度の投資活動の結果、使用した資金は、53,355千円（前連結会計年度は398,617千円の使用）となりました。これは主に有形・無形固定資産の取得による支出と投資有価証券等株式の取得による支出が、有形固定資産の売却による収入を上回ったことによるものであります。
- 3 当連結会計年度の財務活動の結果、獲得した資金は、10,760千円（前連結会計年度は188,113千円の獲得）となりました。これは主に借入れや社債の発行による収入と、借入金の返済及び社債の償還による支出による差異であります。

## 連結株主資本等変動計算書(要旨)(自2007年9月1日 至2008年8月31日)

(単位:千円)

科 目	株主資本				評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
前期末残高	330,432	295,004	284,840	910,277	1,279	9,521	921,079
連結会計年度中の変動額							
新株の発行	690	690		1,380			1,380
剰余金の配当			△ 7,902	△ 7,902			△ 7,902
当期純損失			△ 149,648	△ 149,648			△ 149,648
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					△ 2,325	△ 1,685	△ 4,011
連結会計年度中の変動額合計	690	690	△ 157,550	△ 156,170	△ 2,325	△ 1,685	△ 160,182
当期末残高	331,122	295,694	127,289	754,106	△ 1,045	7,836	760,897

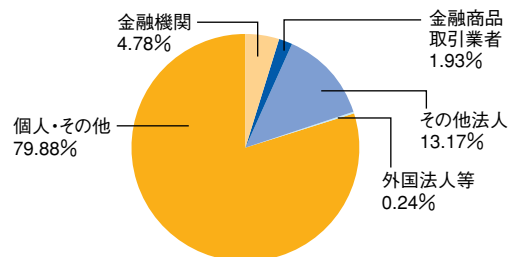
## ●株式の状況(2008年8月31日現在)

発行可能株式総数	30,000株
発行済株式の総数	7,926株
株主数	896名

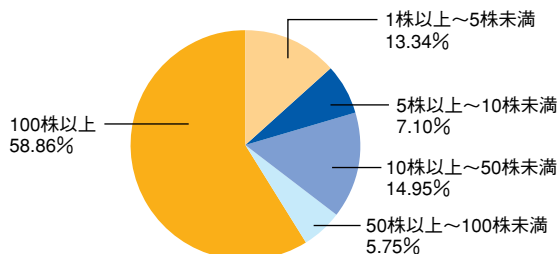
## ●大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
前 俊守	2,500	31.54
サムシングホールディングス社員持株会	402	5.07
(株)本陣	330	4.16
(株)千葉銀行	300	3.79
前トミ	205	2.59
(株)ゲオエステート	150	1.89
(有)コモリ企画	150	1.89
アートクレーン(株)	142	1.79
平野 岳史	140	1.77
野村証券(株)	125	1.58

## ●所有者別株式分布状況



## ●所有株数別株式分布状況



## 株主優待制度のご案内

当社株式への投資の魅力を高め、個人の皆様をはじめ、中長期的に当社株式を保有いただける株主様の増加を図ることを目的としております。



※写真はお米券1kg見本となります。

- (1) 対象株主/毎年8月31日の最終の株主名簿または実質株主名簿に記載または記録された株主様を対象とさせていただきます。
- (2) 優待品/ご所有株式数に応じてお米券を下記の基準により贈呈させていただきます。

贈呈基準

- ①保有株式数◎1株以上5株未満の株主様に「お米券(全国共通)」2kg相当
  - ②保有株式数◎5株以上の株主様に「お米券(全国共通)」5kg相当
- (3) 贈呈時期/毎年11月(定時株主総会終了後)を予定しております。  
(今回は、この株主通信等のご送付書類に同封しております。)

●会社概要 (2008年8月31日現在)

商 号 ● サムシングホールディングス株式会社

設立年月日 ● 2000年10月6日

本社所在地 ● 〒104-0033  
東京都中央区新川1-17-24  
ロフター中央ビル6F  
TEL 03-5566-5555 (代表)

資本金 ● 3億3,112万2,500円

従業員数 (連結) ● 231名

役員 ● 代表取締役社長 前 俊守  
(2008年11月27日現在)

取締役 青木 宏

取締役 笠原 篤

取締役<sup>(※)</sup> 佐々木 隆

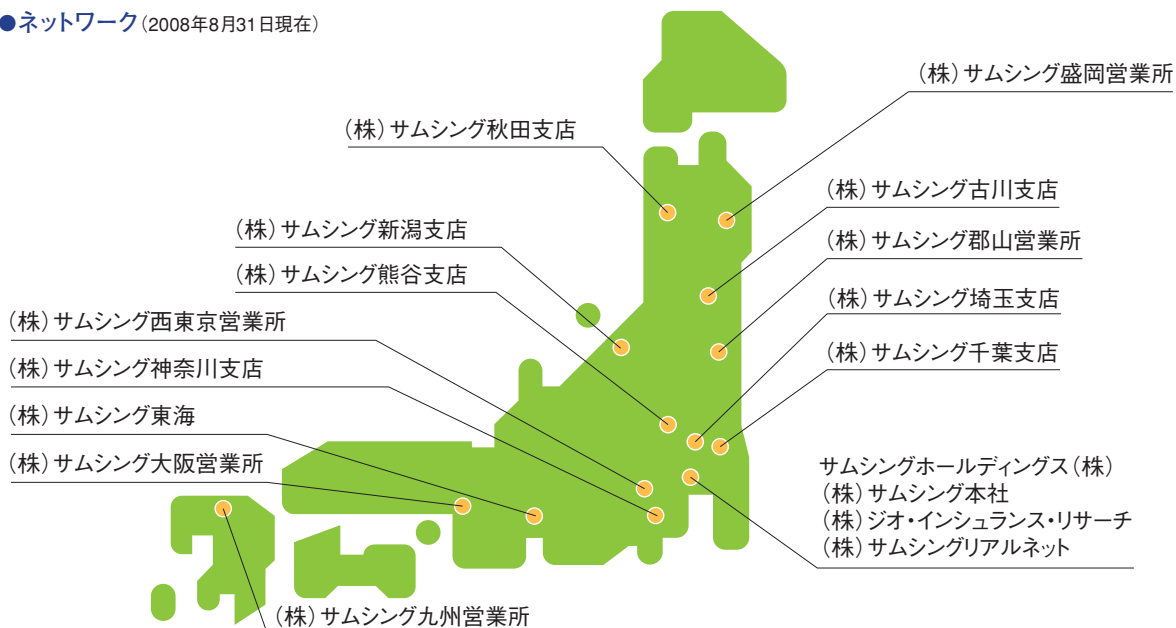
常勤監査役<sup>(※)</sup> 岡田 憲治

監査役<sup>(※)</sup> 佐藤 増生

監査役 荒木 久忠

(※) 社外取締役または社外監査役

●ネットワーク (2008年8月31日現在)



## ●株主メモ

- 事業年度 / 9月1日から翌年8月31日まで  
株主確定基準日 / 定時株主総会・期末配当金 8月31日  
中間配当金 2月末日  
定時株主総会 / 毎年11月  
株主名簿管理人 / 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 / 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
同連絡先 / 〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711(フリーダイヤル)  
同取次所 / 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
公告方法 / 電子公告掲載URL  
<http://www.sthd.co.jp/>  
ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。  
証券コード / 1408  
上場金融商品取引所 / 大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」

## ●IRサイトのご案内

事業紹介をはじめ、最新IR情報は当社ホームページにてご確認いただけます。

### 当社ホームページ

<http://www.sthd.co.jp/index.html>



### IR情報

<http://www.sthd.co.jp/ir/index.html>



## 株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本誌がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 1408

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com